

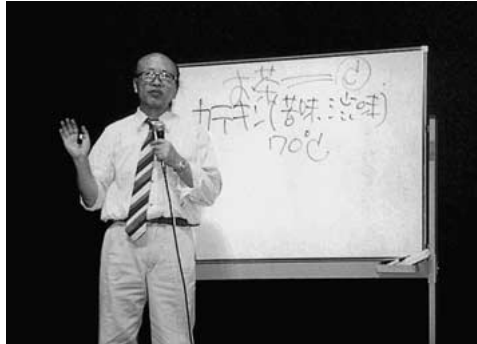
県社協のひろば

健康で明るい「福祉社会かながわ」へ

「第五十三回県社会福祉大会を開催」

去る十月二十一日、「第五十三回神奈川県社会福祉大会」を県内社会福祉関係者約千名の参加のもと、県立音楽堂において開催しました。当日は、台風二十三号の影響が残り天候が心配されましたが、第二部開始の頃には、秋の好天に恵まれました。

第一部の記念講演は、食文化史研究家で総合長寿食研究所所長の永山久夫さんをお招きし、「元気に長生きするための『100歳食入門』」と題してご講演いただきました。永山さんは終始楽しくお話を運ばれながら、お米やお茶、大豆（特に納豆）と野菜、魚を食べること。そしてよく笑い、明るく生きることが老化や病気を予防し元気に長生きする秘訣と話し、最後には、会場で大きな声で笑いに、講演を閉じられました。



お茶や納豆など親しみやすい食材の成分を紹介しながら、元気に過ごすための良い摂取方法等を説明する永山さん

第二部の式典では、多くの来賓の方々にご臨席いただく中、県内福祉の向上に長年に渡り

尽力された方々に対し、表彰、感謝の授与が行われました。

受賞者の内訳は、県介護賞（九人）、社会福祉関係者知事表彰（六十四人、十六団体）、ホームヘルパー知事表彰（三人）、共同募金運動功労者知事表彰（三十三人、七団体）、県民生委員・児童委員永年勤続表彰（五人）、県社協会長表彰（六百七人、九十七団体）、県社協会長感謝（三百五十七人、十団体）、県共同募金会会長感謝（個人百四十六人、団体二十三団体、委嘱職員二十四人）でした。

受賞者代表で挨拶した赤井英子さん（富士見保育園園長）は、「受賞を新しいスタートとして、この感激を忘れずに地域のリーダーとして活動していきたい」と語られました。

（総務課）

福祉用具を身近に感じてみよう！

「福祉用具の日」記念イベントから

毎年十月一日は、平成五年に制定された「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」の施行にちなんで、福祉用具を適切に普及していこうと定められた、「福祉用具の日」です。本会かながわともしびセンターでも、より「福祉用具」を身近に感じてもらいたいと考え、去る十月九日、かながわ県民センターで「福祉用具の日」記念イベントinかながわを開催しました（主催・本会、(社)日本福祉用具供給協会南関東支部神奈川県ブロック）。

この日はあいにく大型台風が本県に接近しており、開催地の横浜市も大荒れの天気だったにもかかわらず、多くの方が来場されまし

た。

午前中は、福祉用具の研究者・市川冽氏による、福祉用具を使った移乗方法について、実演を交えながら学びました。

午後は、親しみやすい人柄で人気の、タレント・藤村俊二氏による講演会を開催しました。

どんなに忙しい時でも、閃いた「ちょっとした言葉」を、必ずメモにとってから一日を終えると話す藤村さん。講演の中でも、とっておきの「言葉」の数々をご披露くださいました。また、様々な大病を乗り越えてこられた体験談などを、ユーモアを交



福祉用具研究の第一人者である市川さんから、福祉用具を効果的に活用した移乗の方法についてご紹介いただきました

えながらお話いただきました。最後は、「元気・勇氣・陽気がいくつもの波を日々乗り越えていくための、三つの『き』。でもその三つでも、どうにもならないことがある。その時に出てくる四つめの『き』は、『時』なんですよ」と締められました。

イベントの最後は、来場者が参加するお楽しみ抽選会を開催しました。高級ブランドのバックがあたった幸運な方もいらっしやるなど、会場は和やかな雰囲気になりました。

今後も、福祉用具をより身近に感じていただけるよう、様々な催しや講習会を開催していく予定です。皆さん是非ご参加ください。

（バリアフリー普及課）